

市政レポート

彦坂 和子  
尾関 宗夫  
渡邊 智史

日本共産党一宮市議団の活動をお知らせします。

シャトル

2023年4月  
No. 859

発行：日本共産党一宮市委員会  
TEL45-5424 Fax 45-5347  
一宮市八幡2-13-30

[発行] 日本共産党一宮市委員会 JCP一宮

## 市議会議員選挙の結果 1⇒2 議席に躍進！

4/23 一宮市議会議員選挙の投開票行われました。日本共産党から彦坂和子（4期目）、渡邊智史（新人）が立候補し、1 議席から 2 議席へと増やすことができました。ご支持・ご支援をいただいた有権者のみなさんに感謝申し上げます。

●得票数 彦坂和子 2,366、渡邊智史 2,240

●党派・会派別

共産 2、自民 6、立民 1、維新 1、公明 5、参政 1、無所属 22 人

●現職 32、元 1、新人 5 人

●女性議員 9 人から 10 人となりました。

●有権者数 310,937 人、投票者数 121,725 人、

●投票率 39.15%



\* 日本共産党の 2 議席への躍進は、①一般質問時間も 2 倍となり、市民の願いを議会へ届けて改善を求め実現する確かな力となる、②複数の常任委員会での所属となり予算や議案の審議を深めことになる、③会派代表質問ができるようになるなど、議会の役割を前に進めることができるものと考えます。

読者のみなさんへ 市政へのご意見・ご要望などお気軽にお寄せください。

## 当選証書付与される

4/25 本会議場にて選挙管理委員会委員長から、当選した 38 人の議員に当選証書が付与されました。議員バッジなども。

その後懇談会が開催され、市長の挨拶のあと全議員が自己紹介を行いました。日本共産党彦坂和子・渡邊智史議員は「日本共産党です。選挙中に掲げた公約の実現に全力をあげます。」と発言しました。



## ひこさか和子議員の抱負

市民・有権者のみなさんのご支援を頂き、市議会で 4 期目働かせていただくことになりました。4/25 当選証書をいただき、改めて責任の重さを痛感しています。

選挙中は「岸田自公政権が進める戦争できる国づくりでなく平和の準備を 国民の暮らしを守る予算を増やそう」「国保税の引き下げを、一宮市で学校給食無償化を、高齢者の補聴器購入に補助を、公共交通バスの拡充を」など訴え、「実現してほしい」との声が寄せられています。

事務所にわざわざ来ていただいた高齢の方は「補聴器が 35 万円もするのでとても買えない。年金が少ないので買いたいけど買えないと困っている高齢者は多いと思う。ぜひ一宮市で実現してほしい」と話されました。葉栗地域の方は「免許証返納したいけど、返納した後に病院や買い物に出かけられないと本当に困る。バスなどを増やしてほしい」と話されました。

わたなべさとし議員と力を合わせて、公約実現に全力をあげます。今後ともよろしくお願ひします。



## わたなべさとし議員の抱負

党員・読者・後援会員・支持者のみなさんの奮闘で、市民のみなさんから多数のご支持・ご支援をいただき、日本共産党の 2 議席目として議会に送っていただきました。

市民のみなさんの議員として、市議選で掲げた公約実現にひこさか和子議員と力を合わせて全力で取り組んでいきたいと思ひます。

市議選で掲げた公約の実現に向け、全力を尽くすとともに、市民の声を市政に届ける役割を果たすため、一人ひとりと対話する機会を大事にしていきたいと思ひます。

「運転免許を返納したら生活ができない」という、公共交通を充実してほしいという声がか寄せられています。大型物流倉庫建設で、水害被害増加・交通量増加による危険の増加・騒音や振動被害への不安の声がか寄せられています。

市民の声を市政に届け、願ひの実現と問題・不安の解決につなげていきます。

読者のみなさんへ 次回のシャトルは休ませていただきます。



## 愛知県の統一地方選挙後半戦の結果について

4月24日、日本共産党愛知県常任委員会として、「統一地方選挙後半戦の結果について」の文章を発表しました。要約してご紹介いたします。

### 統一地方選挙後半戦の結果について

2023年4月24日 日本共産党愛知県常任委員会

日本共産党は、35の市町村で55人の候補者を擁立し、4月23日投開票の統一地方選挙後半戦の一般市町村議選に臨みました。

議席空白であった半田市と阿久比町で勝利を収め、一宮市や尾張旭市で複数の議席を回復しました。また、27の市町村で議席を守り抜くことに成功しました。

首長選挙では、瀬戸市で自主支援した候補者が当選しました。しかし、春日井市や武豊町で現職が落選し、春日井市で4から3議席、武豊町が2から1議席に後退、候補者擁立できなかった豊山町が議席空白となりました。55人全員当選を目標に掲げましたが、50人が当選し、そのうち50%が女性でした。日本共産党候補者の当選のために、昼夜を分かたず奮闘した党員みなさんに心からの敬意を表するとともに、日本共産候補者の勝利のために、たくさんのご支援、ご協力をいただいた「しんぶん赤旗」読者、後援会員、支持者みなさんに心からのお礼を申し上げます。ありがとうございます。

今回の選挙でも、勝共連合による反共宣伝や反共ビラが配布されるなど激しい反共攻撃がかけられた中での選挙でした。自公「オール与党」と日本共産党との対決構図を押し出し、他党との対比で共産党議席の値打ちを押し出す論戦を展開しました。

岸田政権の「戦争国家」づくりの危険な実態を告発し、外交による平和の体制づくりで市民の命を守るとする論戦の二つを柱にすえた攻勢的な政治宣伝を展開しました。

組織活動では選挙の担い手を広げる「折り入って作戦」に取り組んでいました。その結果、現職2つの議席を失いながらも新たに4つの議席を獲得し、2議席の前進を果たしました。共産党は激しい反共攻撃の中で踏みとどまり、大健闘したと受け止めています。

今回の統一地方選挙の総括は、しかるべき時期にひらかれる中央委員会総会での総括を踏まえながら、全県の討議をすすめ、県委員会総会でしっかりとおこなっていきたいと考えています。そのうえでただちに2つのことに取り組んでいきます。

一つは、選挙中に訴えた公約実現のとりくみです。選挙戦で学校給食の無償化をはじめ市民みなさんから寄せられた切実な要求を実現することを公約として訴えました。当選した地方議員みなさんが議会で提案してだけでなく、党をあげた公約実現の住民運動にとりくんでいきます。また、暴走する岸田自公政権との対決も、重大局面にあります。「戦争国家」づくりに反対する国民世論をひろげる草の根から大運動をおこしていくのをはじめ、原発再稼働・推進阻止、入管法改悪に反対するたたかいも大いに広げていきます。

もう一つは、党の自力をつける活動です。今回議席空白となった豊山町はじめ、美浜町、大口町でも現有議席を守る複数候補者の擁立ができませんでした。候補者が擁立できずに、議席を失うという痛恨の事態に直面しているということを認識しなければなりません。また、地域で活動する党員の多くが、70代、80代となっており、前回と同じように活動することができないために、活動の到達点は、前回から大きく後退したことも直視する必要があります。

今回の選挙で直面した、これらのことを考えるならば、今回の選挙の最大の教訓は、世代的継承を正面にすえて党員を増やしていくことができなければ、4年後の選挙はたたかえないということです。

いま全党は、来年1月の党大会をめざし「130%の党」をつくることを提起した中央委員会の「手紙」にこたえた活動にとりくんでいます。選挙のなかでも追求してきましたが、選挙を通じて結びついた人々に、選挙のお礼を述べながら、ただちに入党の働きかけ、「しんぶん赤旗」の購読を訴えていくことが大事になっています。

一方で「130%の党」づくりへの希望も生まれています。選挙の時期と重なった今年の学生新歓運動は、4月だけで、学生を中心に44人が、民青同盟に加盟しています。これは愛知では、80年代に匹敵します。党としての援助を大いに強め、一人でも多くの学生を党に迎え入れることにも力をつくしていくことが求められています。

早期の解散・総選挙も予想されるなか、これらの活動をすすめていくことはまったなしです。県議空白の克服をはじめ今回の統一地方選挙で築いた政治的地歩を土台に、反共攻撃を打ち破って、今度こそ躍進・勝利といえる結果をつくり出すために、総力をあげていく決意です。

以上